

Ryo-yo quality 京都両洋高校の特徴

「人」として輝く生徒を育てます。

「社会に出て役立つ青年として育て、次のステージに送り出す」本校の教育目標です。高校生活を通してこの目標を達成するために、私たちは「自律・尊重・対話・創造」という4つのキーワードを大切にしています。自ら考え、判断し、行動する。違いを理解し、他者を尊重する。対話により、解決策を見出す。豊かな発想で、新たな価値を生み出す。これら4つを実現できる力を身につけて社会への一歩を踏み出せるよう、独自に描いた12の「目指す生徒像」に向けた教育プログラムを展開。行事、学習、進路指導、生活指導、課外活動など本校における教育活動のすべてを通じて、「人」として輝くための総合的な力を育てていきます。

目指す生徒像 12

- 1 基本的な生活習慣を自らとどえられる生徒
- 2 礼儀正しく、品を保ち、たくましさや優しさを持った生徒
- 3 知識や情報を収集し、有効に活用できる生徒
- 4 見通しをもって計画的に行動できる生徒
- 5 様々な場面で言葉や技能を使いこなせる生徒
- 6 様々な職業に興味・関心の幅を広げられる生徒
- 7 「なりたい」自分を定め、日々努力し続ける生徒
- 8 人権に対する配慮が行き届いた生徒
- 9 「いじめ」や「からかい」がない中で生活する生徒
- 10 SNSに対して健全な取り扱いができる生徒
- 11 意見の違いを対話によって解決できる生徒
- 12 ルールを踏まえて建設的に主張できる生徒

人間教育

「7つの習慣」

大切なことは、自分の可能性を信じること。人間力教育の中心的プログラムとして取り組み、より良い生き方ができるようにサポートしています。

エナジード

多様な価値観に触れ、その上で目的意識を持って選択し行動する。自分で考えを組み立て、納得できる答えにたどり着く力を鍛えることで、生き方や進路を考え抜くキャリア教育プログラムです。

魅力ある学習

一人ひとりの「輝きたい」に合わせて選べる4つのコース

「難関大学を目指す」「クラブ活動を頑張りたい」「資格取得や専門的な知識も学びたい」「将来の夢や目標を見つけない」など、希望に合わせてコースを選択できます。

志望大学進学への徹底支援（放課後講座）

講座形式とCBT※1学習の併用、習熟度別のクラス編成などきめ細かな放課後講座で、苦手科目や弱点の克服、得意科目のさらなる実力アップや実践力を身につけることができます。

※1 Computer Based Trainingの略、コンピュータを利用して学習を支援するシステム

クラブ活動

体育系・文化系の多彩な活動

本校では、多くのクラブがそれぞれの目標を掲げ、活発に活動しています。勉強だけでなくクラブ活動に積極的に参加することで、たくましさや優しさを備えた人間を育成することを目指します。

勉強との両立もしっかりサポート

学習面を支えるプログラムの充実のほか、担任・進路指導部・クラブ顧問が生徒の進路希望と学習状況を密に情報共有。クラブ活動に全力で取り組みながら自分の進路を切り拓く力を育てています。

新しい学びの探究

京都両洋高校では、2021年度よりiPadを新入生全員に導入し、生徒一人ひとりに最先端の教育を実践します。現代社会において、ICT（情報通信技術）の最低限の知識と技術を身につけることは必須となりました。iPadを使った授業を通して、主体的・協働的・探求的な学びを追究し、学びの形を進化させていきます。

- 学習での活用
- 進路指導での活用
- 情報共有での活用

Club activities 多種多様な部活でキラリ!

一生懸命に取り組む、仲間と協力する……様々な行事を通して楽しい学校生活を。



吹奏楽部



サッカー部



男子硬式野球部



女子バレーボール部



バドミントン部



陸上競技部



女子硬式野球部



女子バスケットボール部



硬式テニス部



アメリカンフットボール部



男子バスケットボール部



水泳部



チアリーディング部



柔道部



ハンドボール部



ダンス部



弓道部



女子相撲部



写真部



ITS部

Facility 充実した施設でキラリ!

授業もクラブ活動も心ゆくまで取り組めるよう、最新＆充実の施設・設備が揃っています。



チアリーディングスクエア



第2体育館前駐車場



第2体育館メインフロア 空調完備



全天候型人工芝グラウンド



静原グラウンド (女子硬式野球部専用グラウンド)



吹奏楽部合奏場 (HERZ Saal)



トレーニング室



プール 公認温水プール



硬式野球部室内練習場



南郷グラウンド (男子硬式野球部専用グラウンド)

School excursion 修学旅行でキラリ!

異文化や異なる言語に直に触れる修学旅行。「東洋と西洋の架け橋となる」建学の精神に一歩近づく。

オーストラリア

5探究&J進学(選抜進学系・進学系)&Jキャリア

最も満足度の高い行事はやっぱり修学旅行! 異文化体験を通じて新たな自分を発見しよう!!

学校行事において、最も満足度の高い修学旅行。本校では、オーストラリアのケアンズとその周辺地域が研修先です。特にホストファミリー宅で2泊するファームステイは、皆さんにとってよい思い出となるでしょう。英語が通じない環境に身を置き、仲間と協力し、ホストファミリーとコミュニケーションを取り合う中で、異文化理解と協力することの大切さを学ぶはず。また、修学旅行を通じて、生徒の満足度が最も高いのは5日目のグリーン島観光。世界遺産であるグレートバリアリーフの玄関口にある、大自然が約6000年の歳月をかけてつくり上げたサンゴの島で、グラスボトムボードで船に乗ったまま海の中を覗くことができ、時には海ガメを見ることがあります。本校の建学の精神は「東洋と西洋の架け橋となる国際人の育成」。オーストラリアの大自然を目の当たりにし、異文化に触れることで、今まで気づきもしなかった「新たな自分」に出会えるかも!?

セブ島

K特進&J進学(英語留学系) J進学(選抜進学系・進学系)&Jキャリア

マンツーマンの語学研修と多彩なアクティビティ。理想的な環境でたっぷり海外研修!

K特進コースとJ進学コース英語留学系のセブ島修学旅行は語学研修と海外体験の二つを軸としています。マンツーマンの英会話レッスンを2週間集中的に受講し、英語4技能の向上を図ります。経験豊富な講師による充実したレッスンによって、各生徒に適したペースの学習に取り組みやすい環境です。週末にはボランティア活動、マリンアクティビティ、現地の子たちとの交流など、豊かな国際教養を身につけることを目指す研修も予定しています。事前にオンライン英会話を半年受講することで、現地での学習へスムーズに移行できるようにしています。他にもセブ島研修には、欧米と比べて留学費用が安いこと、英語を話す人口が多いこと、フレンドリーな国民性から生まれるホスピタリティなど、多くの利点があります。このプログラムはJ進学コース(選抜進学系・進学系)とJキャリアコースにも選択制として拡充し希望者には2年生のオーストラリア修学旅行ではなく、セブ島修学旅行を選択することもできます。

吹奏楽部

WIND BAND

「音楽は世界をつなく!」 京都両洋でしか味わえない生涯の思い出づくりを。

音楽は世界の共通語と言われています。それは言葉は通じなくても、楽譜と楽器さえあれば外国の人とも感動を分かち合えるからです。吹奏楽部では、過去にドイツやチェコをまわるヨーロッパ演奏旅行、コロナ禍では国内の吹奏楽強豪校とのジョイントコンサート開催など、国際人の育成を目指して、年度ごとに企画された演奏旅行を実施。生徒たちの学びとともに、国際平和と音楽文化交流に貢献してきました。

令和5年度は、12月に4泊5日の台湾への演奏旅行を企画しています。台湾嘉義市政府文化局が主催する台湾最大の伝統的な音楽祭「嘉義国際吹奏楽祭」に参加予定です。今年で31回目を迎え、世界中から総勢25万人以上が参加し、例年大変な賑わいをみせるこの音楽祭にパレードとマーチングショーへの出演を計画しています。

異文化を学び、様々な人との出会いや交流を通して、生徒たちは修学旅行で生涯の財産となる思い出をつくります。

サッカー部

SOCCER

Danke schön!「ありがとうございます!」 サッカー部員たちの元気な声が響きます。

2018年3月15日、サッカー部はドイツへ海外遠征を行いました。修学旅行と海外遠征の2つの側面を併せ持つ今回の行程ではまず、その国の文化や歴史に触れることから始めました。実際に様々な施設を巡ることは教科書や映像で学習するよりも大きなインパクトがあります。そしてドイツ国内リーグであるブンデスリーガではフランクフルトVS マインツの試合を生観戦。宿泊はサッカー専用総合施設「スポーツシュレ」です。ヨーロッパや海外には代表チームも合宿を行うサッカー専用宿泊施設がどの国にもあります。スポーツに打ち込むには最高の環境でした。地元ユースチームとの交流試合前後には相手チームと交流。全世界が熱狂し国、文化、歴史を超えてボール一つで交流し、通じ合えるサッカーの持つ偉大な力、素晴らしい瞬間を誰もが強く感じた経験でした。海外の文化、芸術、歴史に触れ、瞬時に過ぎた7日間。「百聞は一見に如かず!」この興奮は言葉、写真では伝えきれません。皆さんも一緒に体験してみませんか? 令和5年度(2024年3月)は、オーストラリア遠征を予定しております。

